

Single needle iHDF の有用性 ～認知症患者に対する新たな選択肢～

はじめに

認知症患者の安静な透析治療は重要なテーマ

看護必要度の著しく高い認知症患者に対し
新たな透析手法を導入した1症例について報告する



Single needle

- ・ 穿刺針を1本のみ使用
- ・ 溶質除去率低い
- ・ 回路内凝固リスクあり



iHDF (間歇補充型 HDF)

- ・ 一定の間隔毎に自動で補液を行う
- ・ 溶質除去率向上期待できる
- ・ 回路内洗浄効果あり

目的

認知症透析患者に対し

Single needle × iHDF 治療を施行

- ⇒ 治療効果の維持は可能か
- ⇒ 透析中の安静を保持できるか

症例

82歳男性 アルツハイマー型認知症 Dw52.5kg (H28.5.1時点)

H21.9月 糖尿病性腎症にて透析導入

H24.7月 当院併設老健施設入所目的にて転入

- ・ 穿刺時の暴力行為のため**介助者2名以上を伴い穿刺**
(局所麻酔テープはスキントラブルにて未使用)
- ・ 透析中に抜針予防具を破壊し**自己抜針**

H27.3月 HD から iHDF へ変更

H27.5月 抗精神病薬の内服開始も、**再び自己抜針**

H27.6月 **iHDF から Single needle iHDF へ変更 (Dw52.5kg)**
(低反応部位へ1本穿刺)

評価項目

1. 定期採血
BUN、Cr、K、IP
2. 不穏の程度 (穿刺時・透析中)

透析条件

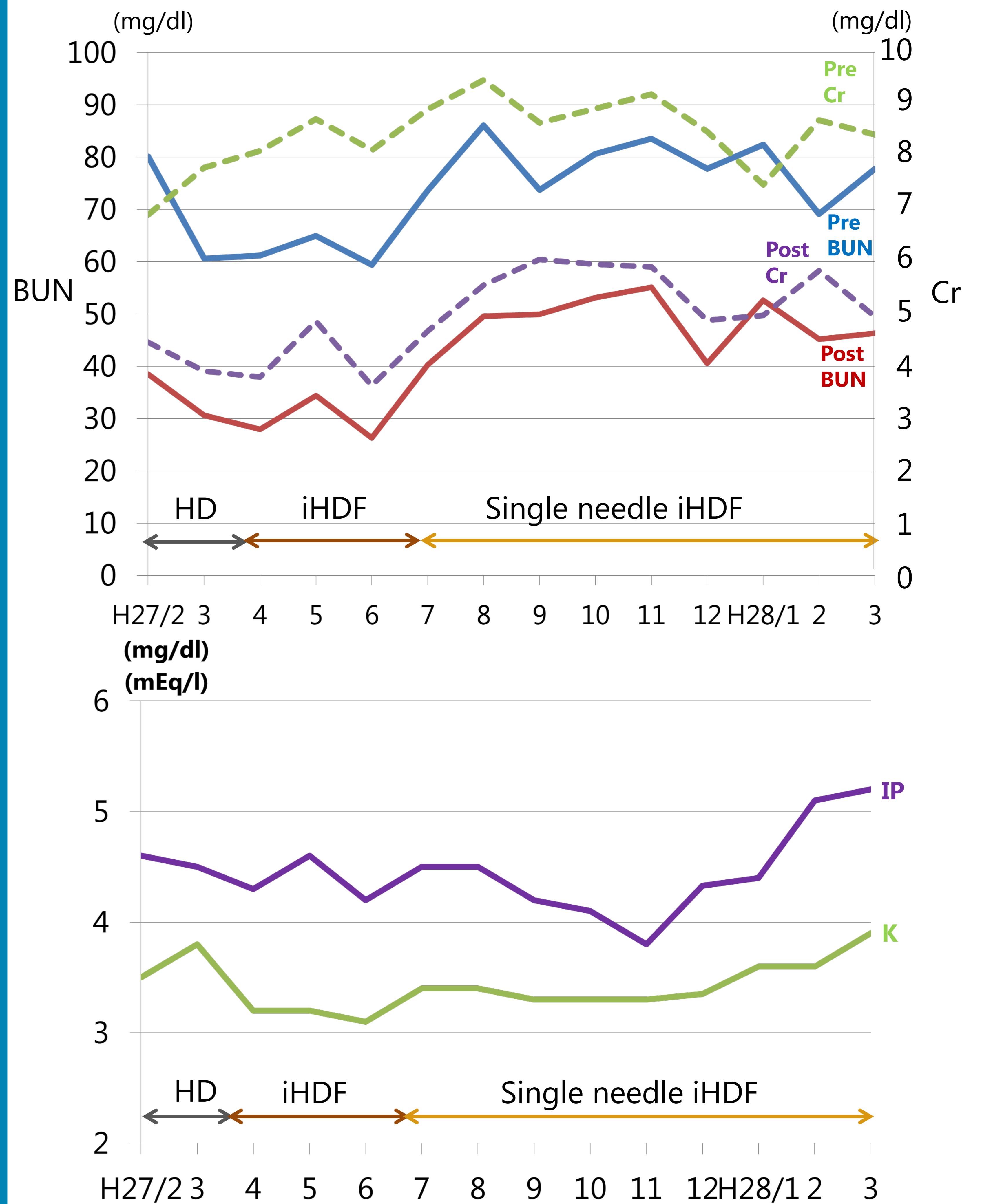
Time : 3 h × 3 / week

Filter : PN-140 (HD) TDF-17M (iHDF/Single needle iHDF)

採血完了圧 : 280mmHg 返血完了圧 : 30mmHg

補液 : 40ml/10min interval (TORAY TR3300M)

結果



		HD/iHDF	Single needle iHDF
穿刺時	大声	毎回	月に数回程度
	介助人数	2名以上	1名
透析中	抜針行為	毎回 (予防具剥離行為)	なし

考察

- ・ 定期採血の著しい悪化は認められないため、Single needle の溶質除去率低下を iHDF が緩和している可能性が示唆された
- ・ Single needle により、穿刺時のストレスを可能な限り排除したことが透析中の安静保持に寄与したと推察された

まとめ

Single needle iHDF は

認知症透析患者に対して一定の治療効果を維持し
安静な治療を提供できる一助となり得る